一宮西病院
整形外科専門研修プログラム

目次

1. 整形外科専門研修の理念と使命
2. 一宮西病院整形外科専門研修後の成果
3. 一宮西病院整形外科専門研修プログラムの目標と特徴
4. 研修方法
4.1 基本方針
4.2 研修計画
・専門知識の習得計画
・専門技能の習得計画
・経験目標（経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等）
・プログラム全体と連携施設におけるカンファレンス
・リサーチマインドの養成計画
・学術活動における研修計画
・コアコンピテンシーの研修計画
・地域医療に関する研修計画
・サブスペシャルティ領域との連続性について
4.3 研修およびプログラムの評価計画
・専攻医の評価時期と方法
・専門研修プログラム管理委員会の運用計画
・プログラムとしての FD(Faculty Development)の計画
・専門研修プログラムの改善方法
4.4 専攻医の就業環境の整備機能
4.5 整形外科研修の休止、中断、プログラムの移動、プログラム外研修の条件について
4.6 修了要件
5. 研修スケジュール、研修ローテーション、専門研修施設群、指導医
6. 専門研修プログラムを支える体制
・専門研修プログラムの管理運営体制
・専門研修指導医
・プログラム管理委員会の役割と権限
・プログラム統括責任者の役割と権限
・労働環境、労働安全、勤務条件
7,募集人数と応募方法、病院見学の申し込みについて

1. 整形外科専門研修の理念と使命

整形外科専門医は、国民の皆様に質の高い運動器医療を提供することが求められています。このため整形外科専門医制度は、医師として必要な臨床能力および運動器疾患全般に関して、基本的・応用的・実践能力を備えた医師を育成し、国民の運動器の健全な発育と健康維持に貢献することを理念とします。

整形外科専門医は、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、さらに、進歩する医学の新しい知識と技術の習得に日々邁進し、運動器に関わる疾患の病態を正しく把握し、高い診療実践能力を有する医師でなければなりません。

整形外科専門医は、生活習慣や災害、スポーツ活動によって発生する運動器疾患と障害の発生予防と診療に関する能力を備え、社会が求める最新の医療を提供し、国民の運動器の健全な発育と健康維持に貢献する使命があります。

整形外科専門医は、運動器疾患全般に関して、早期診断、保存的および手術的治療ならびにリハビリテーション治療などを実行できる能力を備え、運動器疾患に関する良質かつ安全で心のこもった医療を提供する使命があります。

また高い倫理観を持ち、最新の標準的医療を実践し、安全な医療を心がけプロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供します。

2. 一宮西病院整形外科専門研修後の成果

一宮西病院整形外科研修プログラムを修了した専攻医は、あらゆる運動器に関する科学的知識と、高い社会的倫理観を備え、さらに進歩する医学の新しい知識と技能を修得できるような幅広い基本的な臨床能力（知識・技能・態度）が身についた整形外科専門医となることができます。また、地域医療を配慮した研修によって、専攻医は研修期間中に以下のコアコンピテンシーも習得できます。

1）患者への接し方に配慮し、患者や医療関係者とのコミュニケーション能力を磨くこと。
2）自立して、誠実に、自律的に医師としての責務を果たし、周囲から信頼されること（プロフェッショナリズム）。
3）診療記録の適確な記載ができること。
4）医の倫理、医療安全等に配慮し、患者中心の医療を実践できること。
5）臨床から学ぶことを通して基礎医学・臨床医学の知識や技術を修得すること。
6）チーム医療の一員として行動すること。
7）後輩医師に教育・指導を行うこと 。
8)地域医療における包括的なチーム医療の一員としての役割を学ぶこと。

3. 一宮西病院整形外科専門研修プログラムの目標と特徴

一宮西整形外科専門研修プログラムは到達目標を「地域医療に貢献できる幅広い知識と視野をもった整形外科医師」としています。

整形外科学は、運動器の機能と形態の維持・再建をめざす臨床医学であり、脊椎、上肢、下肢などの広範な診療領域を扱います。高齢化型社会をむかえた我国においては、整形外科への期待はますます大きくなっています。

一宮西病院は愛知県一宮・尾張西部地域の救急・急性期医療を担う総合病院です。2009 年（平成 21 年）11 月に一宮市開明に新築・移転し、救急医療が充実。11 階建ての病院内では、一般急性期病棟に加え、ICU や手術室、専門診療科外来や救急外来など多岐にわたる医療を展開しています。

整形外科専門センター（手の外科マイクロサージャリーセンター・人工関節センター・四肢外傷センター）の運営も行っており、多くの整形外科症例を経験できます。連携施設として一宮市郊外に位置するリハビリテーション病院の尾西記念病院では地域に根ざした医療を経験できます。

米盛病院では、救急科を併設する整形外科を中心とした病院であり、外傷グループ、脊椎グループ、関節グループ、総合整形外科グループの 4 グループから構成されるチーム医療として入院・手術加療を多く経験出来ます。

自治医科大学附属病院では脊椎班、肩膝スポーツ班、小児班、股関節班、手の外科班、外傷班に分かれており、大学病院としての高度専門医療を経験できます。

スポーツ医学、手外科、脊椎外科、関節外科、救急医療、リハビリテーションなどそれぞれに特色をもった施設で構成され当プログラムはそれら施設と連携し研修することにより、プライマリ・ケアから最先端の臨床・研究までを偏りなく学ぶことができます。

多くの手術症例を経験・執刀し、研修終了後に自立した整形外科医として診療が出来ることを目指します。

4. 研修方法

参照資料

整形外科学会プログラム整備基準及び付属資料(日本整形外科学会 HP)

https://www.joa.or.jp/edu/index.html

4.1 基本方針

整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って、一宮西病院および連携施設群において研修を行います。その中には、自治医科大学附属病院と連携した研修も含まれます。専門知識習得の年時毎の到達目標と専門技能修得の年時毎の到達目標は、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 1「専門知識習

得の年次毎の到達目標」、資料2「専門技能習得の年次毎の到達目標」を参照して下さい。
研修実績の記録と評価には、日本整形外科学会整形外科専門医管理システムを用います。専攻医は、各研修領域終了時および研修施設移動時に日本整形外科学会が作成したカリキュラム成績表の自己評価欄に行動目標毎の自己評価を行います。また指導医評価表で指導体制、研修環境に対する評価を行います。指導医は、専攻医が行動目標の自己評価を終えた後にカリキュラム成績表の指導医評価欄に専攻医の行動目標の達成度を評価します。また、指導医は抄読会や勉強会、カンファランスの際に専攻医に対して教育的な建設的フィードバックを行います。
研修実績と評価をもとに、専門研修最終年度の 3 月に研修プログラム管理委員会において、専門研修修了判定を行います。判定基準は【4.6 修了要件】に定めるとおりです。
このプログラムおよび専門研修プログラム管理委員会はサイトビジットを含む第 3 者の評価・指導を受けます。またその際に研修プログラム統括責任者、研修連携施設指導管理責任者、指導医ならびに専攻医は真摯に対応いたします。

4.2 研修計画

・整形外科基本領域の専門研修は、大学病院や特定機能病院のみならず、地域の中核病院、一般病院、診療所など、さまざまな規模、形態の医療機関を通じて行われるものとする。原則としてプログラム制による研修とするが、卒業後に義務年限を有する自治医科大学、防衛医科大学、産業医科大学の卒業生、地域枠卒業生と出産、育児、留学などで長期にプログラムを中断しなければならない相当の合理的な理由がある場合は、カリキュラム制での研修を選択できることとする。また、他基本領域の専門医を取得してから整形外科専門研修を開始する専攻医はカリキュラム制での研修とする（カリキュラム制での研修制度については資料 14 参照)。
・プログラム制による研修、カリキュラム制による研修とも研修開始時点から日本整形外科学会会員でなければならない。
・整形外科の研修で経験すべき疾患・病態は、骨、軟骨、筋、靱帯、神経などの運動器官を形成するすべての組織の疾病・外傷・加齢変性です。また新生児、小児、学童から成人、高齢者まで全ての年齢層が対象となり、その内容は多様です。この多様な疾患に対する専門技能を研修するために、整形外科専門研修は 1 ヶ月の研修を 1 単位とする単位制をとり、全カリキュラムを脊椎、上肢・手、下肢、外傷、リウマチ、リハビリテーション、スポーツ、地域医療、小児、腫瘍の 10 の研修領域に分割し、専攻医が基幹病院および連携病院をローテンションすることで、それぞれの領域で定められた修得単位数以上を修得し、3 年 9 か月で 45 単位を修得する修練プロセスで研修します。
・初期臨床研修期間中や他領域の専門研修期間中に整形外科指導医のもとで研修した症例については整形外科専門研修期間の症例としてカウントすることができるものとする。

①専門知識の習得計画

専攻医は整形外科研修カリキュラムに沿って研修し、整形外科専門医として、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を獲得する必要があります。さらに、進歩する医学の新しい知識を習得できるように、幅広く基本的、専門的知識を習得する。専門知識習得の年次毎の到達目標を決めます。

②専門技能の習得計画

本研修プログラムでは、専門技能を整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」（日本整形外科学会ホームページ参照）に沿って研修し技能の習得状況を 6 カ月毎に評価します（自己評価および指導医評価)。専門研修プログラム管理委員会による専攻医面接を年 1 回行い、評価したデータをまとめた評価表を参照し、技能習得に関する目標設定・取得単位調整・指導を行います。専攻医の過半数が獲得できていない技能があれば、これを獲得するためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が開催します。

③経験目標（経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等）

経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等は、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」（日本整形外科学会ホームページ参照）に明示された症例数以上を一宮西病院及び連携施設で偏りがないように経験することができます。

④プログラム全体と連携施設におけるカンファレンス

各研修施設の研修委員会の計画の下、症例検討ならびに抄読会はすべての施設で行います。専攻医の知識・技能習得のためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が企画・開催します。

⑤リサーチマインドの養成計画

自治医科大学付属病院において開催される専攻医が自らの症例を用いて研究した成果を発表する同門会に参加します。研究指導は各施設の指導医が行います。

⑥学術活動における研修計画

研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続きにより 30 単位を修得する。また、1 回以上の学会発表、筆頭著者として 1 編以上の論文を作成する。

⑦コアコンピテンシーの研修計画

整形外科専門医としての臨床能力（コンピテンシー）には、専門的知識・技能だけでなく、医師としての基本的診療能力が重要であることから、どの領域から研修を開始しても基本的診療能力を身につけさせることを重視しながら指導し、さらに専攻医評価表を用いてフィードバックをすることによって基本的診療能力を早期に獲得させます。

一宮西病院および各研修施設の医療倫理･医療安全講習会に参加し､その参加状況を年１ 回専門研修プログラム管理委員会に報告します。

⑧地域医療に関する研修計画

プログラムの研修施設群は医師不足地域中核病院を含みます。本プログラムとは別の地域における整形外科診療や病病連携、病診連携を経験することを目的に、他県での研修を行います。すべての専攻医は愛知県内医師不足地域小病院および県外医師不足地域中核病院に３ヵ月以上勤務します。

尚､常勤で ３ ヵ月間連続して勤務しなくても､常勤や非常勤での勤務期間が合計 ３ ヵ月間相当であっても可とする(単位のカウント方法については資料６研修方略を参照)。

地域医療を研修する医療機関での整形外科研修は、整形外科専門研修プログラム管理委員会が指定した指導医と勉強会、カンファランスの機会を設けたり、指導医に非常勤で外来診療、手術の指導などを受けたりするなどして密接な連携をとって行うようにすること。また基幹施設及び連携施設は僻地などの整形外科と緊密な連携をとり、医療の質を保つことができるシステムを構築する。

⑨サブスペシャルティ領域との連続性について

整形外科専門医のサブスペシャルティ領域として、一宮西病院は日本手の外科学会の研修施設として認定されており､手の外科を専門にするための研修を行うことができます。また､脊椎脊髄病学会指導医が在籍しており､直接指導を受けられます。希望者には専門医取得のバックアップを行っております。専攻医のサブスペシャリティ領域の専門研修や学術活動を支援していきます。

⑩自己学習の環境

院内図書室では日本整形外科学会雑誌や Journal of Orthopaedic Science（電子ジャーナルも利用可能）などの冊子体に加え､図書室端末以外でも院内インターネット接続端末においてリンクリゾルバを導入し、Journal of Bone &Joint Surgery -American Volume や The Bone & Joint Journal などの電子ジャーナルへのアクセスも可能です。The Cochrane Library でのエビデンス情報、また、今日の臨床サポート、今日の診療、UpToDate などの臨床支援ツールを活用し、診断、検査、治療などについてより広く深く学習することが出来ます。

4.3 研修およびプログラムの評価計画

①専攻医の評価時期と方法

専攻医および指導医は研修記録による研修実績評価を定期的に行い専門研修プログラム管理委員会に提出します。一宮西病院および各研修施設での研修評価を各施設での研修終了時に行います。専攻医は研修プログラムの取得単位、学会発表・論文執筆数、教育研修講演受講状況を年度末に専門研修プログラム管理委員会に提出し、専門研修プログラム管理委員会で評価します。上記の総評を専門研修プログラム管理委員会で年 1 回年度末に評価します。

②専門研修プログラム管理委員会の運用計画

専攻医および指導医は研修記録による研修実績評価を 6 カ月に 1 回行い専門研修プログラム管理委員会に提出します。

専攻医は研修プログラムの取得単位、学会発表・論文執筆数、教育研修講演受講状況を年度末に専門研修プログラム管理委員会に提出し、専門研修プログラム管理委員会で評価します。上記の総評を専門研修プログラム管理委員会で年 1 回年度末に評価します。

③プログラムとしての FD(Faculty Development)の計画

指導医は整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 12「整形外科指導医マニュアル」（日本整形外科学会ホームページ参照）に従って専攻医を指導します。指導医の指導技術向上のためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が企画・開催します。厚生労働省および日本整形外科学会主催の指導医講習会へ参加し、その参加状況を年 1 回専門研修プログラム管理委員会に報告します。

④専門研修プログラムの改善方法

専門研修プログラム管理委員会で年 1 回検討し、必要に応じてプログラム改定を行います。

4.4 専攻医の就業環境の整備機能

専門研修プログラム管理委員会は、専攻医に対するアンケートと面接で各施設の就業環境を調査します。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、専門研修指導責任者に文書で通達・指導を行います。

4.5 整形外科研修の休止、中断、プログラムの移動、プログラム外研修の条件について

傷病、妊娠、出産、育児、その他やむを得ない理由がある場合の休止期間は合計 6 ヶ月間以内とします。限度を超えたときは、原則として少なくとも不足期間分を追加履修することとなります。疾病の場合は診断書の、妊娠・出産の場合はそれを証明するものの添付が必要

です。留学、診療実績のない大学院の期間は研修期間に組み入れることはできません。また研修の休止期間が 6 ヶ月を超えた場合には、専門医取得のための専門医試験受験が 1 年間遅れる場合もあります。専門研修プログラムの移動に際しては、移動前・後のプログラム統括責任者及び整形外科領域の研修委員会の同意が必要です。

4.6 修了要件

１．各修得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること
２．行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること。
３．臨床医として十分な適性が備わっていること。
４．研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により 30 単位を修得していること。
５．1 回以上の学会発表か筆頭著者として 1 編以上の論文があること。

5. 研修スケジュール、研修ローテーション、専門研修施設群、指導医

一宮西病院では整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」（日本整形外科学会ホームページ参照）にあるすべての分野を研修することができます。愛知県の中核病院として、地域医療の拠点となり、最新の設備と豊富な症例を経験しながら、症例検討・カンファレンス・抄読会などにより専門的な知識・技能を指導します。

表 1 一宮西病院週間予定

		月	火	水	木	金
早朝	8:00	カンファ				
	8:15		カンファ	カンファ	手の外科 カンファ	カンファ
午前		病棟回診 手術 外来	病棟回診 手術 外来	病棟回診 手術 外来	病棟回診 手術 外来	病棟回診 手術 外来
午後		手術 関節造影	手術 脊髄造影	手術 骨粗鬆症外来	手術	手術
夕刻	17:00		第 1 週骨粗 カンファ	症例検討		

専門研修施設群

一宮西病院（A）が専門研修基幹施設となります。

本研修プログラムの施設群を構成する連携施設は以下の通りです。各施設の研修可能領域は表 2 に示します。

（B）自治医科大学附属病院（Ⅰ型基幹施設）

（C）米盛病院（Ⅱ型基幹施設）

（D）尾西記念病院（地域）

整形外科専門研修カリキュラムではリサーチマインドの研修のために、Ⅱ型研修プログラムにおいても、その連携施設群にⅠ型研修プログラムの基幹施設を含め、その施設での 6 ヶ月以上の研修を義務付けています。本研修プログラムでは、Ⅰ型基幹施設である自治医科大学附属病院での 6 ヶ月間の研修を行います。

米盛病院は鹿児島県に位置し、地方中核病院としてⅡ型基幹施設であり多くの指導医と手術数を擁する高度専門領域研修病院です。尾西記念病院は愛知県内の地域リハビリテーション病院です。

一宮西病院整形外科プログラムは地方中核病院、地域医療ならびに幅広い領域の研修を受けることができます。

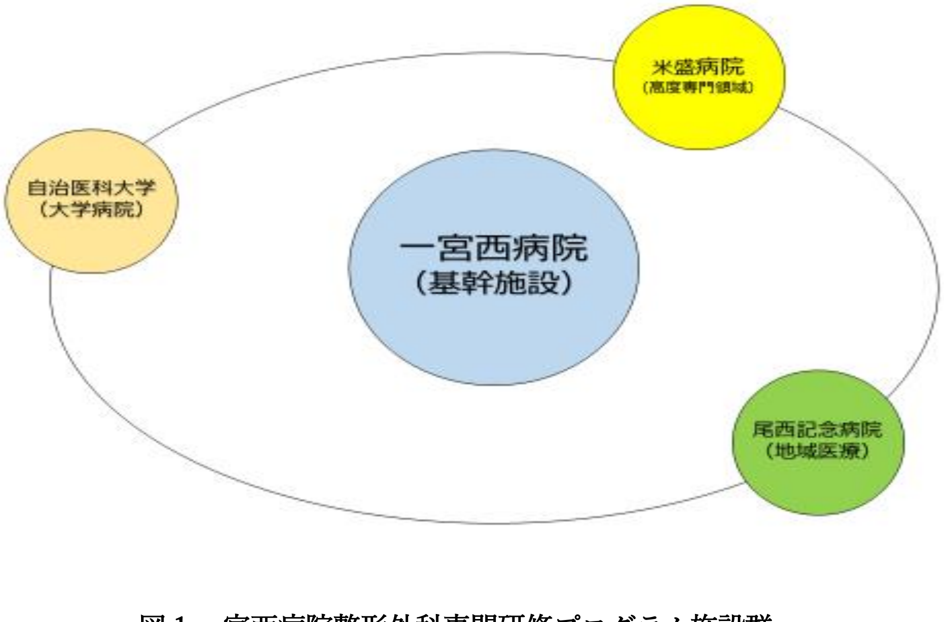

図 1.一宮西病院整形外科専門研修プログラム施設群

表 2 研修病院群と指導可能な研修領域

	指導可能な研修領域									
医療機関名	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j
一宮西病院（A）	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
自治医科大学附属病院（B）	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
米盛病院（C）	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
尾西記念病院（D）						●		●		
a）脊椎、b）上肢・手、c）下肢、d）外傷、e）リウマチ、f）リハビリテーション、g）スポーツ、h）地域医療、i）小児、j）腫瘍										

表 3 症例数、指導医数

	新患数（2020 年）	手術数	指導医数
一宮西病院	3,872	1,963	5
自治医科大学付属病院	881	689	6
米盛病院	9,225	3438	12
尾西記念病院	499	−	1

表 4 研修病院別ローテーション表

医療機関名	1 年目	2 年目前半	2 年目後半	3 年目前半	3 年目後半	4 年目前半	4 年目後半
一宮西病院(A)	専攻医 1 専攻医 2 専攻医 3	専攻医 1	専攻医 1 専攻医 4	専攻医 4	専攻医 4	専攻医 1 専攻医 2 専攻医 3	専攻医 1 専攻医 2 専攻医 3
自治医科大学附属病院(B)		専攻医 2		専攻医 1	専攻医 3	専攻医 4	
米盛病院（C）	専攻医 4	専攻医 3 専攻医 4	専攻医 3	専攻医 2	専攻医 2		
尾西記念病院（D）			専攻医 2	専攻医 3	専攻医 1		専攻医 4

表 5 専攻医別取得単位

専攻医 1

年次	1	2	3 前半	3 後半	4	終了時
研修施設	A	A	B	D	A	
a脊椎　6単位	2	2	1		1	6
b上肢・手　6単位	2	2			2	6
c下肢　6単位	2	2			2	6
d外傷　6単位	2	2			2	6
eリウマチ　3単位		1	1		1	3
fリハビリ　3単位	1	1			1	3
gスポーツ　3単位	1				2	3
h地域医療　3単位				3		3
i小児　2単位			2			2
j腫瘍　2単位			2			2
流動　5単位	2	2			1	5
合計	12	12	6	3	12	45

専攻医 2

年次	1	2 前半	2 後半	3	4	終了時
研修施設	A	B	D	C	A	
a脊椎　6単位	2	1		2	1	6
b上肢・手　6単位	2			2	2	6
c下肢　6単位	2			2	2	6
d外傷　6単位	2			2	2	6
eリウマチ　3単位		1		1	1	3
fリハビリ　3単位	1			1	1	3
gスポーツ　3単位	1				2	3
h地域医療　3単位			3			3
i小児　2単位		2				2
j腫瘍　2単位		2				2
流動　5単位	2			2	1	5
合計	12	6	3	12	12	45

専攻医 3

年次	1	2	3 前半	3 後半	4	終了時
研修施設	A	C	D	B	A	
a脊椎　6単位	2	2		1	1	6
b上肢・手　6単位	2	2			2	6
c下肢　6単位	2	2			2	6
d外傷　6単位	2	2			2	6
eリウマチ　3単位		1		1	1	3
fリハビリ　3単位	1	1			1	3
gスポーツ　3単位	1				2	3
h地域医療　3単位			3			3
i小児　2単位				2		2
j腫瘍　2単位				2		2
流動　5単位	2	2			1	5
合計	12	12	3	6	12	45

専攻医 4

年次	1	2 前半	2 後半	3	4 前半	4 後半	終了時
研修施設	C	C	A	A	B	D	
a脊椎　6単位	2	1	1	1	1		6
b上肢・手　6単位	2	1	1	2			6
c下肢　6単位	2	1	1	2			6
d外傷　6単位	2	1	1	2			6
eリウマチ　3単位				1	1		3
fリハビリ　3単位	1	1		1			3
gスポーツ　3単位	1	1	1	1			3
h地域医療　3単位						3	3
i小児　2単位					2		2
j腫瘍　2単位					2		2
流動　5単位	2		1	2			5
合計	12	6	6	12	6	3	45

6. 専門研修プログラムを支える体制

①専門研修プログラムの管理運営体制

Ⅱ型基幹施設である一宮西病院においては、指導管理責任者（プログラム統括責任者を兼務）および指導医の協力により、また専門研修連携施設においては指導管理責任者および指導医の協力により専攻医の評価ができる体制を整備します。専門研修プログラムの管理には日本整形外科学会が作成した指導医評価表や専攻医評価表などを用いた双方向の評価システムにより、互いにフィードバックすることによって研修プログラムの改善を行います。

上記目的達成のために一宮西病院に専門研修プログラムと専攻医を統括的に管理する整形外科専門研修プログラム管理委員会を置きます。

本研修プログラム群には、1 名の整形外科専門研修プログラム統括責任者を置き、また、副プログラム統括責任者を 1 名置き、副プログラム統括責任者はプログラム統括責任者を補佐します。

② ２型基幹施設の役割

Ⅱ型基幹施設である一宮西病院は専門研修プログラムを管理し、プログラムに参加する専攻医および連携施設を統括します。

一宮西病院は研修環境を整備し、専攻医が整形外科の幅広い研修領域が研修でき、研修修了時に修得すべき領域の単位をすべて修得できるような専門研修施設群を形成し、専門研修プログラム管理委員会を中心として、専攻医と連携施設を統括し、専門研修プログラム全体の管理を行います。

③ 専門研修指導医

指導医は専門研修認定施設に勤務し、整形外科専門医の資格を 1 回以上更新し、なおかつ日本整形外科学会が開催する指導医講習会を 5 年に 1 回以上受講している整形外科専門医であり、本研修プログラムの指導医は上記の基準を満たした専門医です。

④ プログラム管理委員会の役割と権限

1）整形外科研修プログラム管理委員会は、研修プログラムの作成や研修プログラム相互間の調整、専攻医の管理及び専攻医の採用・中断・修了の際の評価等専門医研修の実施の統括管理を行います。

2）整形外科研修プログラム管理委員会は研修の評価及び認定において、必要に応じて指導医から各専攻医の研修進捗状況について情報提供を受けることにより、各専攻医の研修進捗状況を把握、評価し、修了基準に不足している部分についての研修が行えるよう、整形外科専門研修プログラム統括責任者や指導医に指導・助言する等、有効な研修が行われるよう配慮します。

3）研修プログラム管理委員会は、専攻医が研修を継続することが困難であると認める場合には、当該専攻医がそれまでに受けた専門医研修に係る当該専攻医の評価を行い、管理者に対し、当該専攻医の専門医研修を中断することを勧告することができます。

4）研修プログラム管理委員会は、専攻医の研修期間の終了に際し、専門医研修に関する当該専攻医の評価を行い、管理者に対し当該専攻医の評価を報告します。

5）整形外科専門研修プログラム管理委員会の責任者である専門研修プログラム統括責任者が、整形外科専門研修プログラム管理委員会における評価に基づいて、専攻医の最終的な研修終了判定を行います。

6）一宮西病院は連携施設とともに研修施設群を形成します。一宮西病院に置かれたプログラム統括責任者は、総括的評価を行い、修了判定を行います。また、プログラムの改善を行います。

⑤ プログラム統括責任者の役割と権限

プログラム統括責任者は、整形外科領域における十分な診療経験と教育指導能力を有し、以下の整形外科診療および整形外科研究に従事した期間，業績，研究実績を満たした整形外科医とされております。
1)整形外科専門研修指導医の基準を満たす整形外科専門医。
2)医学博士号またはピアレビューを受けた英語による筆頭原著論文 3 編を有する者。

プログラム統括責任者の役割・権限は以下の通りとします。
・専門研修基幹施設である一宮西病院における研修プログラム管理委員会の責任者であり、プログラムの作成、運営、管理を担う。
・専門研修プログラムの管理・遂行や専攻医の採用・修了判定につき最終責任を負う。

⑥労働環境、労働安全、勤務条件

一宮西病院や各研修連携施設の病院規定によりますが、労働環境、労働安全、勤務条件等へ以下に示す配慮をします。
・研修施設の責任者は専攻医のために適切な労働環境の整備に努めます。
・研修施設の責任者は専攻医の心身の健康維持に配慮します。
・過剰な時間外勤務を命じないようにします。
・施設の給与体系を明示します。

7. 募集人数と応募方法、病院見学の申し込みについて

【専攻医受入数】各年次 3 名 合計 12 名
各施設の専攻医最大受け入れ可能数は指導医数及び、手術件数、新患数で定められている基準より下記の表の通りになり、これまで当院の連携病院の専攻医受入数も勘案すると、当プログラムでの専攻医受入数は各年次 3 名となり、合計 12 名としました。

【応募方法】
一宮西病院専攻医募集ページよりエントリーまたは応募に必要な以下の書類を郵送またはメールで下記に送付。
URL: https://www.anzu.or.jp/ichinomiyanishi/resident/major/

【必要書類】
①履歴書

【募集期間】8 月 1 日～9 月 30 日
【問い合わせ先】
〒494-0001 愛知県一宮市開明字平 1 番地
一宮西病院
担当： 人事部　富田　隆司
TEL:0586-48-0033　FAX:0586-48-0050
e-mail: r-tomida@anzu.or.jp